



## 世界経済のトレンド丸解り！今週の注目レポート



このコーナーでは、フィナンシャル・インテリジェンス部に配属された新人のルミが「世界経済の今・そしてこれから」を把握するために是非読んでおきたい、今週の重要レポート・ニュース記事を紹介します。（原則月曜日更新）

「部長、おはようございます！」

「榎原君、おはよう。今週のポイントは？」

「米国において決算発表が本格化しますので、注目しておきたいですね。」

詳細は以下をご覧ください。



### 今週の注目レポート・重要ニュース

本格化する米企業決算に注目

■経済指標や重要イベントなど

#### 【1.米国】

先週の米国市場は、3日に発表された米雇用統計が大幅に市場予想を下回ったことでFRBによる早期の利上げ観測が後退したことや、欧州株高などを好感し大きく上昇しました。ダウ平均は3月24日以来およそ2週間半ぶりに節目の18,000ドル台を回復して取引を終えています。

#### 1-1. ISM 非製造業景況感指数

6日に発表された3月の米サプライマネジメント協会（ISM）の非製造業景況感指数は前月から小幅に低下し56.5となり市場予想と一致しました。

#### 1-2. FOMC 議事要旨

8日に公表された3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨では、利上げ時期に対する委員の見方が割れていたことが明らかとなりました。参加者の大半はエネルギー安やドル高の影響で年後半まで利上げが適切な状況にならないと指摘する一方で、数人が6月には利上げが正当化されるとみていることがわかりました。また、参加者の少数は2016年にずれ込むとの考えを示しています。



### 1-3. 米企業の決算発表

先週からスタートした 1-3 月期の決算発表が今週から本格化します。主要企業でみると今回は前年同期比 3%近いマイナスと 2009 年 7-9 月以来およそ 5 年半ぶりの減益が予想されていますが、今週は金融大手やインテル（INTC）の決算発表が予定されています。

### 1-4. 米小売売上高

14 日に 3 月の米小売売上高が発表されます。2 月は前月比 0.6%減とプラスを見込んでいた市場予想を下回って 3 カ月連続のマイナスとなりました。今回は 4 カ月ぶりのプラスが見込まれています。

### 1-5. 米 CPI

17 日に米消費者物価指数（CPI）が発表されます。前月比で小幅な上昇が見込まれていますが、FRB の今後の金融政策を占ううえで注目されます。

## 【2.欧州】

先週の欧州市場で主要な株価指数はユーロ安による業績拡大期待から上昇しました。ドイツの DAX 指数は史上最高値を更新しています。

### 2-1. ECB 理事会

15 日に ECB 理事会が開催されます。今回は金融政策の変更はないとみられています。

## 【3.日本】

先週の日本市場は、米国株高や円安、追加の緩和期待などから上昇しました。日経平均は週間で 2% 以上上げ、週末に一時 2000 年 4 月以来 15 年ぶりに 20,000 円の大台を回復する場面もみられました。

### 3-1. 金融政策決定会合

日銀の金融政策決定会合が 7 日、8 日と開催され、8 日に結果が発表されました。金融政策に変更はありませんでしたが、今月は 30 日にも金融政策決定会合が予定されており、昨年 10 月に追加金融緩和が発表された際と同様に「経済・物価情勢の展望（展望レポート）」が発表されることからそのタイミングで追加緩和を行うのではないかと期待が膨らみました。



### 3-2. 景気ウォッチャー調査

8日に発表された3月の景気ウォッチャー調査は街角の景気実感を示す現状判断指数が前月比2.1ポイント上昇の52.2となり4カ月連続で改善しました。

#### 【4.中国】

先週の上海市場は追加の金融緩和への期待などから大きく上昇しました。上海総合指数は5週続伸となり、2008年3月以来7年1カ月ぶりに4,000ポイントの大台を回復しています。

### 4-1. 中国 GDP

15日に中国の1-3月期の国内総生産（GDP）が発表されます。成長率が政府が目標とする7%を上回るかどうか注目されます。

詳細レポートは以下をご参照ください。

- [日本][チーフ・ストラテジスト広木隆の「ストラテジーレポート」](#)
- [日本][シニア・マーケットアナリスト金山敏之の「投資のヒント」](#)
- [日本][フィスコの「週刊マーケット展望」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社や TIW 社の「アナリストレポート」\(ログイン後限定レポート\)](#)
- [日本][主要日本企業決算カレンダー](#)
- [米国][主要米国企業決算カレンダー](#)
- [米国][米国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [中国][中国株 Market Pick Up 今週の注目ポイント](#)
- [その他][J.P.Morgan \(J.P.モルガン\) 社の、「マクロ経済レポート ウィクリー・データ・ウォッチ」「グローバル・データ・ウォッチ」\(ログイン後限定レポート\)](#)

## グローバル・マクロ・ビュー（世界経済の基本観）

#### 1.日本（前回からの変更なし）

日本銀行は現行の大規模金融緩和の継続を決定。物価の上昇率についての表現はやや下方修正、今後の日銀の姿勢に要注目。

#### 2.米国（赤字が前回からの変更点）

非農業部門雇用者数の下振れで6月利上げ開始の可能性はいったん低下。減益予想の1-3月期の企業の決算発表に注目。



### 3.欧州（前回からの変更なし）

ECB が量的金融緩和、国債購入を開始。ドラギ ECB 総裁は利回りがマイナス 0.2%以上の債券を購入することや当初の購入期限である 2016 年 9 月以降も物価上昇率次第では購入を継続する意向を発表。

### 4.新興国（前回からの変更なし）

中国の全人代で今年の GDP 成長率目標が 7.0%と昨年の 7.5%から引き下げられ、成長を追うよりも国有企業改革や金融市場の自由化など構造改革を優先する方針が鮮明に。

#### 利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、  
一般社団法人 日本投資顧問業協会